

(オサカ病院 局所、伝達麻酔説明書)

局所麻酔、伝達麻酔、手術に関連する偶発症について説明

(各種の局所麻酔) (表面麻酔、浸潤麻酔、神経ブロック、局所静脈内麻酔など)

- 手術される場所だけを麻酔する方法。
- 手術されるところや痛みを伝える神経に局所麻酔を作用させ、痛みを感じなくします。
- 場合によっては手や足が動かせなくなる事もありますが、薬の作用による一時的なものなので効果がなくなっていくにしたがって回復していきます。

- 注射器で局所麻酔薬を注射します。場合によっては血管内に注射したり点眼や うがいで麻酔を効かせる場合もあります。
- 神経に注射する場合、手や足が動かなくなります。
- 手術される場所に打撲や挫滅などがある場合、麻酔の効果が弱い事もあります。
- 使用できる麻酔薬の量が決まっているので手術の範囲が広い場合には麻酔の効果が弱いこともあります。
- 麻酔薬の副作用で舌がもつれたり手や足に震えが来る事があります。
また非常にまれに意識を失うこともあります。
- 各種局所麻酔で麻酔の効果が不十分の場合は、下半身麻酔や全身麻酔など その他の麻酔に切り替える事があります。

(偶発症)

- 安全を確保するべく万全の対策を講じていますが、医療行為は100%安全であるとはいえません。 麻酔、手術中に予期せぬ偶発症が生じる可能性は御理解下さい。
- これらの偶発症により色々な事が生じる可能性、危険性があります。
- 局所麻酔後に比較的起きやすい偶発症 麻酔した部位のしびれ、吐き気、めまい
- 局所麻酔後に比較的まれな偶発症
頭痛、無気肺、腎機能低下症、肝機能障害、喘息や心臓病など手術前からある疾患の悪化や再発
- 局所麻酔後にも起こりえる、更にまれな偶発症
(呼吸器合併症) 胃内容物の逆流による窒息、肺炎(誤嚥性肺炎)、無気肺、肺水腫、気胸など(肺炎が生じれば抗生剤を変更し治療する可能性があり、入院が必要になったり、リハビリが遅れる可能性が考えられます)。
- (循環器合併症) 不整脈、心筋梗塞、心不全、心停止、肺梗塞、血栓症など
- (中枢神経系合併症) 脳梗塞、脳出血など
薬剤に対するアレルギー反応、末梢神経や脊髄の障害なども起こる事があります。
- 不測の事態に対しては適宜最善と思われる処置、対応をさせていただきます。

(説明日) 年 月 日 (説明者)
